

貯法 室温保存、気密容器

## β-ラクタム系抗生物質製剤

要指示医薬品 指定 使用基準

## アモキシシリン20%可溶散「明治」

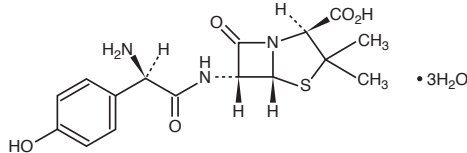
(一般的名称：アモキシシリン散)

## 本質の説明又は製造方法

アモキシシリン20%可溶散「明治」は、β-ラクタム系抗生物質アモキシシリンを20%含有する水に可溶性の白色散剤である。各種のグラム陽性菌・グラム陰性菌に対する殺菌力、経口摂取後の吸収性および病巣組織への移行性に優れている。

## 成分及び分量

本品1g中、日局アモキシシリン水和物200mg(力価)含有。



一般名：アモキシシリン水和物、アモキシシリン、Amoxicillin Hydrate

化学名：(2*S*,5*R*,6*R*)-6-[(2*R*)-2-Amino-2-(4-hydroxyphenyl)-acetylamino]-3,3-dimethyl-7-oxo-4-thia-1-azabicyclo[3.2.0]heptane-2-carboxylic acid trihydrate

## 効能又は効果

〔有効菌種〕

ブドウ球菌、連鎖球菌、ボルデテラ、パスツレラ、大腸菌、ヘモフィルス、アクチノバシラス プルロニューモニエ

〔適応症〕

牛：肺炎、大腸菌による下痢症

豚：肺炎、大腸菌による下痢症

鶏：大腸菌症

## 用法及び用量

〔飲水添加〕

1日量として体重1kg当たり、下記の量を飲水に溶かして、1日に1～2回経口投与する。

〔飼料添加〕

1日量として体重1kg当たり、下記の量を飼料に混じて、1日に1～2回経口投与する。

動物	アモキシシリンとして1日量	アモキシシリン20%可溶散「明治」として1日量
牛(生後5月を超えるものを除く。)		
肺炎	3～10mg(力価)	0.015～0.05g
大腸菌による下痢症	5～10mg(力価)	0.025～0.05g
豚	3～10mg(力価)	0.015～0.05g
鶏(産卵鶏を除く。)	10～50mg(力価)	0.05～0.25g

※本剤を添加する場合は次表を参考にしてください。

## レイヤー育成鶏

週齢(W)	体重(g)	アモキシシリン20%可溶散「明治」1,000羽1日量
1	60	6.0g
3	160	16.0g
5	370	37.0g
7	580	58.0g
9	770	77.0g
11	930	93.0g
13	1060	106.0g
15	1185	118.5g
17	1275	127.5g
19	1365	136.5g

(アモキシシリンとして20mg力価/体重1kg投与の時)

## ブロイラー

週齢(W)	体重(g)	アモキシシリン20%可溶散「明治」1,000羽1日量
初生	40	4.0g
1	130	13.0g
2	330	33.0g
3	620	62.0g
4	980	98.0g
5	1380	138.0g
6	1790	179.0g
7	2200	220.0g
8	2600	260.0g
9	3000	300.0g

(アモキシシリンとして20mg力価/体重1kg投与の時)

## 豚

日齢(日)	体重(kg)	アモキシシリン20%可溶散「明治」10頭1日量
生時	1	0.5g
7	2	1.0g
14	4	2.0g
21	6	3.0g
30	8	4.0g
45	14	7.0g
60	22	11.0g
75	31	15.5g
90	41	20.5g
120	65	32.5g
150	90	45.0g
180	115	57.5g

(アモキシシリンとして10mg力価/体重1kg投与の時)

(裏面に続く)

牛		
月齢 (月)	体 重 (kg)	アモキシシリン 20%可溶散「明治」 1頭1日量
生時	40	2.0g
1	60	3.0g
2	80	4.0g
3	100	5.0g
4	120	6.0g

(アモキシシリンとして10mg力価/体重1kg投与の時)

## 使用上の注意

(基本的事項)

### 1 守らなければならないこと

#### 【一般的注意】

- (1)本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- (2)本剤は効能・効果において定められた適応症の治療にのみ使用すること。
- (3)本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- (4)本剤の使用に当たっては、治療上必要な最小限の期間の投与に止めることとし、過剰にわたる連続投与は行わないこと。
- (5)本剤は、「使用基準」の定めるところにより使用すること。

注意：本剤は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、使用対象動物(牛(生後5月を超えるものを除く。)、豚、鶏(産卵鶏を除く。))について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守してください。

牛(生後5月を超えるものを除く。)：食用に供するためにと殺する前10日間

豚：食用に供するためにと殺する前5日間

鶏(産卵鶏を除く。)：食用に供するためにと殺する前5日間

#### 【使用者に対する注意】

- (1)飼料等に混合する際は、マスク等を着用し、粉じん等を吸い込まないように注意すること。
- (2)本剤はβ-ラクタム系の抗生物質であるので、同系薬に対し過敏症の既往歴がある方は使用しないこと。

#### 【取扱い及び廃棄のための注意】

- (1)飲水投与の場合は用時調製し、よく攪拌してから経口投与すること。
- (2)本剤を飲水投与する場合、本剤の賦形剤が飲水中に存在するカビ等の栄養源となり、給水パイプ等の詰まりの原因になるおそれがあるので、投薬は短時間(2～3時間)で行い、投薬後は速やかに清水を流すこと。また、薬剤投与に用いたタンクも十分に掃除すること。
- (3)小児の手の届かないところに保管すること。
- (4)本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。使用後は密封して保存すること。
- (5)使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- (6)本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。

### 2 使用に際して気を付けること

#### 【使用者に対する注意】

- (1)誤って薬剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。
- (2)過敏症反応を含め、使用者の身体に何らかの異常が認められた場合には、ただちに使用を中止し、すぐに医師の診察を受けること。

#### 【対象動物に関する注意】

- (1)副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

(専門的事項)

#### 【対象動物の使用制限等】

- (1)本剤はβ-ラクタム系の抗生物質であるので、同系薬(ペニシリン等)に対する過敏症の有無を調べ、陽性動物や既往歴のある動物には使用しないこと。

#### 【重要な基本的注意】

- (1)本剤はペニシリナーゼ産生菌には通常奏効しないので、この場合は他の薬剤を使用すること。

#### 【副作用】

- (1)過敏症反応(ショック、発熱、発疹、蕁麻疹等)があらわれた場合は、ただちに投与を中止し、すぐに獣医師にかかること。強心剤、気管拡張剤、昇圧剤、抗ヒスタミン剤やコーチゾン等の投与及び輸液、人工呼吸等、症状に応じた適切な処置を行うこと。

注意-獣医師等の処方箋・指示により使用すること

注意-使用基準の定めるところにより使用すること

## 包 装

アモキシシリン20%可溶散「明治」…1kg

## 【製品情報お問い合わせ先】

Meiji Seikaファルマ株式会社 生物産業事業本部 動薬飼料部

〒104-8002 東京都中央区京橋二丁目4番16号

<http://www.meiji-seika-pharma.co.jp/>

販売元

 **Meiji Seika ファルマ株式会社**  
東京都中央区京橋 2-4-16

製造販売元

 **株式会社 科学飼料研究所**  
東京都中央区築地一丁目12番6号

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発症に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所(<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>)にも報告をお願いします。